

教えて! Q&A

今日のテーマ



アジア・オセアニア

アジア・オセアニア株式市場

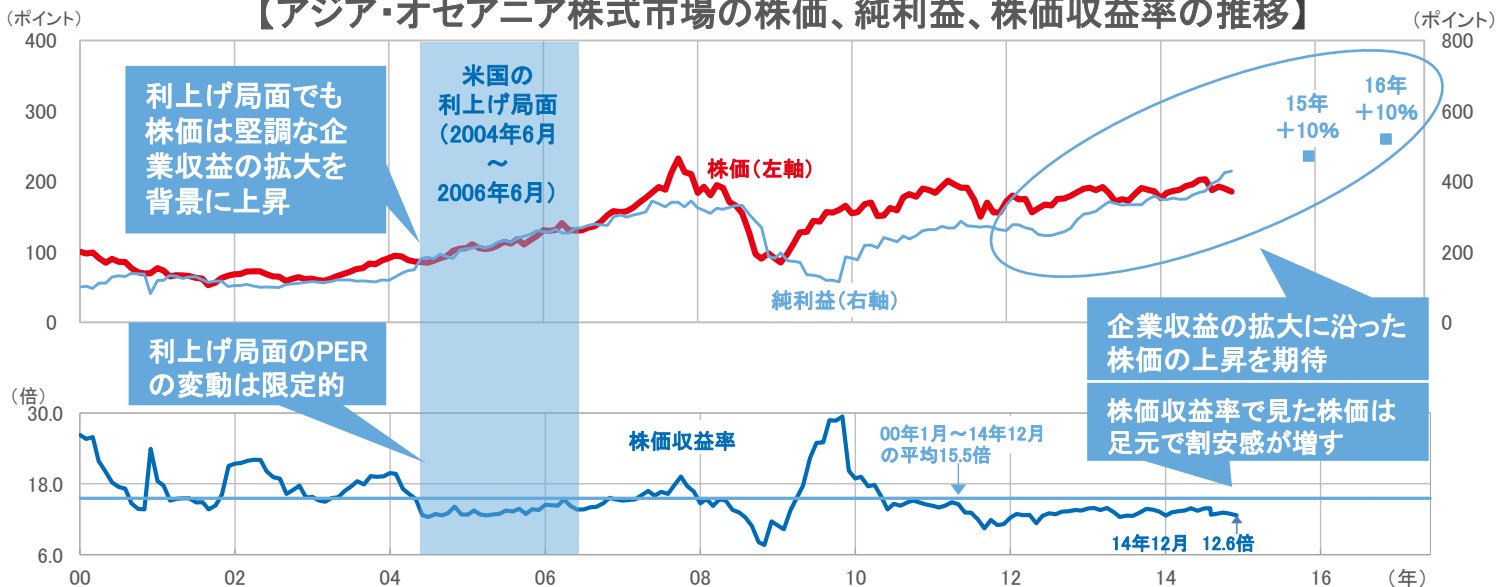
Q アジア・オセアニア株式の今年の見通しは？

A 今年半ば以降に見込まれる米国の利上げ局面でも、企業収益の拡大に沿って株価は上昇基調を維持することが期待されます。

■米国の前回の利上げ局面では、企業収益の拡大に沿い株価は上昇しました。今年半ば以降に見込まれる利上げ局面でも、企業収益の拡大が予想され、株価の上昇が期待されます。

■株価の割安・割高を判断する指標であるPER(株価収益率)は、12.6倍(2014年12月末)と、過去平均(15.5倍)と比べ割高さはみられません。足元では純利益の拡大により割安感が増しています。

【アジア・オセアニア株式市場の株価、純利益、株価収益率の推移】



(注)データは2000年1月末～2014年12月末。株価はMSCI Asia Pacific(除く日本、円ベース、2000年1月末を100として指数化)。株価収益率(PER)は同指数ベース。純利益は同指数ベースの各月末時点過去12カ月の一株当たり純利益(2000年1月末を100として指数化)。2015年以降の年間純利益はBloomberg L.P.の予想で、数値は前年伸び率。(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 輸出の拡大や原油安が企業収益を支える見込み

■米国を中心に世界経済の回復により輸出の拡大が見込まれます。また、原油など資源価格の下落は内需関連を中心とした企業のコストを低下させることなどから、企業収益は拡大が続きそうです。

■企業収益拡大のリスク要因としては、資源国や欧州経済の下振れや、地政学リスクによる世界経済の不安定化などが考えられ、注意が必要となりそうです。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。